

# 新上五島の芋焼酎

## 「五島灘」が初出荷

規制緩和で新規参入

【上五島】国の規制緩和

で新規参入した「五島灘酒造」（新上五島町、田本喜美代社長）の本格芋焼酎「五島灘」の初出荷式が一日、同町有川郷の同社工場であり、出席者らは特産品としての第一歩を祝福した。

この日から順次店頭に並ぶ「五島灘」の特長は、口当たりが優しく、さつぱりとして香りはさわやか。一本七百二十ミリ入り千四百九十一円。約二千五百本を主に長崎県酒販（長崎市）を通して酒店などで扱ってもらう。残りは熟成させて来春から販売する。

式で田本社長は「苦労はあったが、初出荷を迎えられた。愛されるいい焼酎を造ってきたい」とあいさつ。郷土芸能「弁財天（メーサイテン）」の披露などがあった後、出席者は六百本を積んだトラックを見送った。予約していた町民も訪れ、初物を早速手にした。

問い合わせは五島灘酒造（電0959・42・0002）。



芋焼酎「五島灘」の初出荷を祝う関係者。新上五島町、五島灘酒造

石だたみ  
国の規制緩和で  
新規参入した  
「五島灘酒造」  
(新上五島町)

の田本喜美代社長らが九日、今月販売を始めた本格芋焼酎「五島灘」を金子知事に贈呈。知事は満面の笑顔で味わった「写真」。



○：「あまり焼酎は飲まない」という知事だが、「地元の手で造った」と言う井上町長らのすすめで試飲。口当たりが優しく、さわやかな香りに「飲みやすい。ロックでいい」と絶賛した。

○：初回出荷の二千五百本はほぼ完売。知事は「お祝いに十本ぐらい買おうと思っていたのに」と残念そう。